

	施設	経過年数 (2023年度時点)
①	元船C棟上屋 (ドラゴンプロムナード)	25
②	元船B棟上屋	29
③	長崎港ターミナル駐車場 (立体)	28
④	長崎港ターミナルビル	28
⑤	大波止ビル	54
⑥	フェリー用可動橋	28
⑦	ターミナルボーディングブリッジ	28



#### ○定期航路 (高速船等)

運航船社名	船名	船種	旅客数	便数	寄港地
五島産業汽船	びっくあーす	高速船	300	日3便	長崎～鯛ノ浦漁港
	Vアイランド	高速船	79		
九州商船	べがさす	高速船	257	日4便	長崎～(奈良尾漁港)～ 福江～(奈良尾漁港)
	べがさす2	高速船	257		
	シープリンセス	高速船	140	日3便	長崎～有川
	シーエンジェル	高速船	140		
野母商船	鷹風	旅客船	150	日8便	長崎～伊王島～高島
	俊寛	旅客船	268		

#### ○定期航路 (フェリー・RORO船)

運航船社名	船名	係留岸壁	積載能力	便数	寄港地
九州商船	椿	元船 (-6m)	自動車48台、トラック18 台、旅客482名	日3便	長崎～(奈良尾漁港)～ 福江～(相ノ浦(奈留))～ (奈良尾漁港)
	万葉				
五島汽船協 業組合	フェリー さくらII	元船 (-4.5m)	トラック14台	日2便 ※	長崎～福江



・荷捌きの効率性  
(上屋までの距離等)

・施設の老朽化  
・バリアフリー非対応

【交通関係】  
・交通渋滞、車両輻輳  
・歩行者回遊性不足、安全性

・フェリーの安定的な運航

【観光・交流機能】  
・臨海部としての賑わい不足  
・観光クルーズ発着所の点在と待合所の不足  
・緑地空間の不足  
・海への展望場の不足

これらの課題を解決するためには、

「長崎港元船地区整備構想」の策定および実現が必要。

#### 【長崎スタジアムシティプロジェクト】

- ・事業主体：株式会社ジャパネットホールディングス
- ・事業期間：令和6年(予定)
- ・整備概要：スタジアムを核としたアリーナ・オフィス・商業施設・ホテルなどの周辺施設を民間主導で開発するプロジェクト

#### 【新長崎駅ビル開発関係】

- ・事業主体：九州旅客鉄道株式会社
- ・事業期間：令和5年秋頃開業(予定)
- ・整備概要：長崎駅前の人々が訪れ、集う、新たなランドマークとしての賑わい拠点の形成(ホテル、オフィス、商業施設、広場)

長崎市街地周辺の姿が大きく様変わりする中、元船地区の課題を解決しつつ、周辺地区と調和した「みなとまちづくり」のためには、

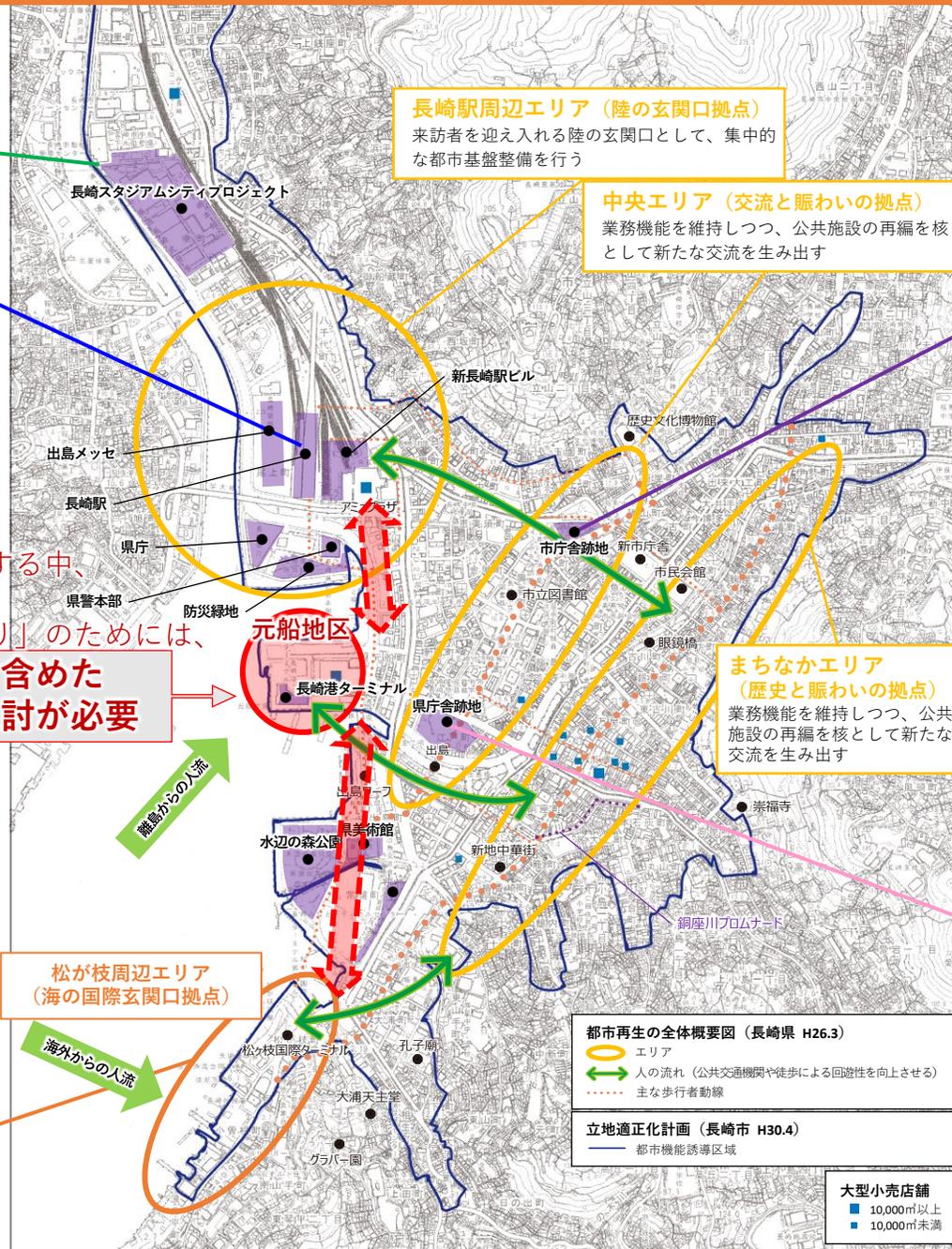
**港湾機能および観光・交流機能を含めた「長崎の海の玄関口」のあり方検討が必要**

#### 【主な課題】

- ・荷捌きの効率性。
- ・フェリーの継続的な運航。
- ・交通渋滞および車両錯綜。
- ・歩行者回遊性不足、歩行者の安全性。
- ・上屋・立体駐車場の老朽化。
- ・臨海部としての賑わい不足。等

#### 【松が枝地区2バース化事業】

- ・事業主体：国土交通省、長崎県
- ・完了目標：令和10年度末
- ・整備概要：海の国際玄関口として、大型クルーズ船が2隻同時着岸できるよう、岸壁延伸を行うことで、インバウンドを核とした賑わいの創出、地域の活性化を目指す。



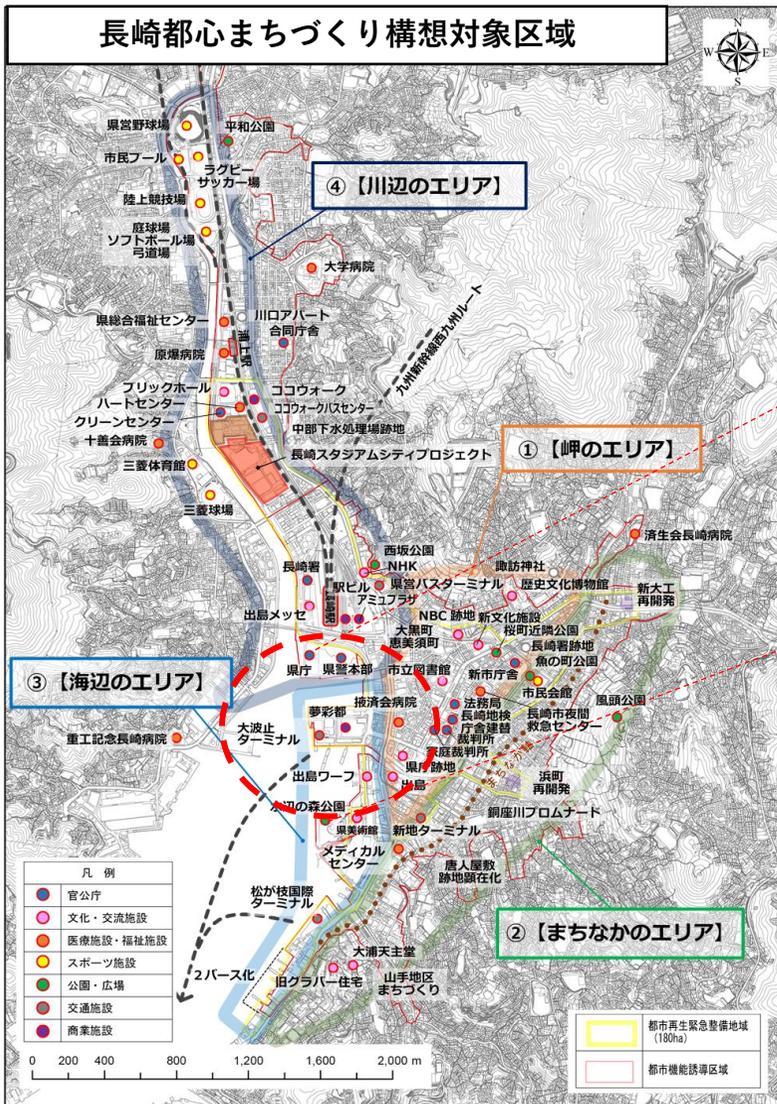
#### 【長崎市新たな文化施設基本計画(素案)】

- ・事業主体：長崎市
- ・施設概要：新たな文化施設。鑑賞・発表機能(ホール1000席程度)、創造支援機能(リハーサル室(小劇場)、練習室)、交流促進機能(交流スペース、情報コーナー、イベント・展示スペース)、その他

#### 【長崎県庁舎跡地活用】

- 「県庁舎跡地整備基本構想(案)」
- ・事業主体：長崎県
  - ・基本理念：『歴史が息づく地で、賑わいと交流による新たな価値を創造する』
  - ・整備する機能：
    - 県民市民の憩いの場や、様々なイベント等による賑わいの場として利用できる「広場」
    - この地の歴史の変遷や世界遺産など本県の魅力を体感していただく「情報発信機能」
    - 本県の将来の発展に資する、若者や女性、NPO等の多様な交流を促進する「交流支援機能」

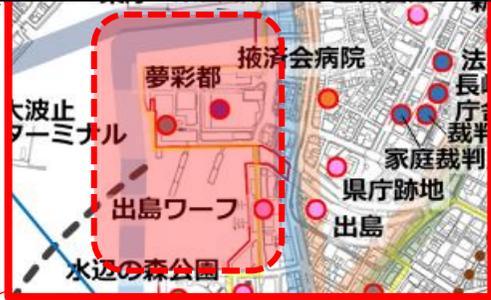
現在、長崎都心全体を俯瞰した将来のまちづくり方針となる「長崎都心まちづくり構想」の策定に向け、検討が進められている。  
(令和5年度中に策定予定：事務局 長崎市まちづくり部)



○対象エリア (左図参照)

- ・都市機能誘導区域を基本に、地形、宅地の連担、公共交通の状況から一定まとまりある区域
- ・今後のまちづくりの核となる事業が複数存在する区域

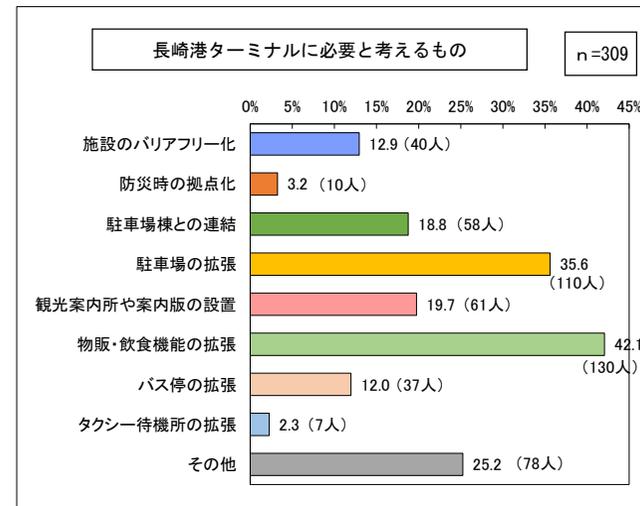
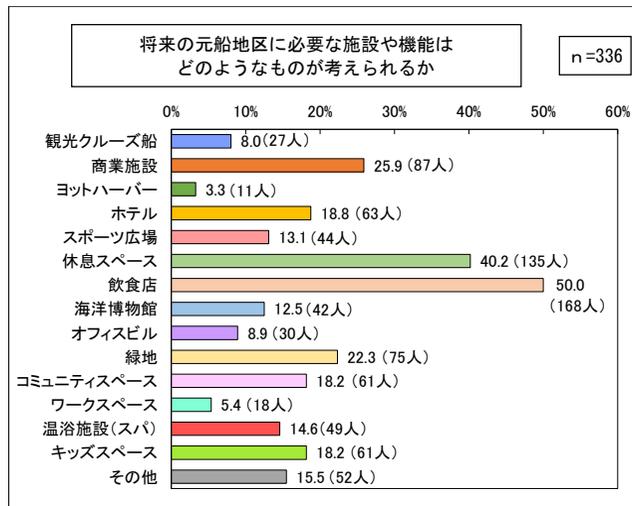
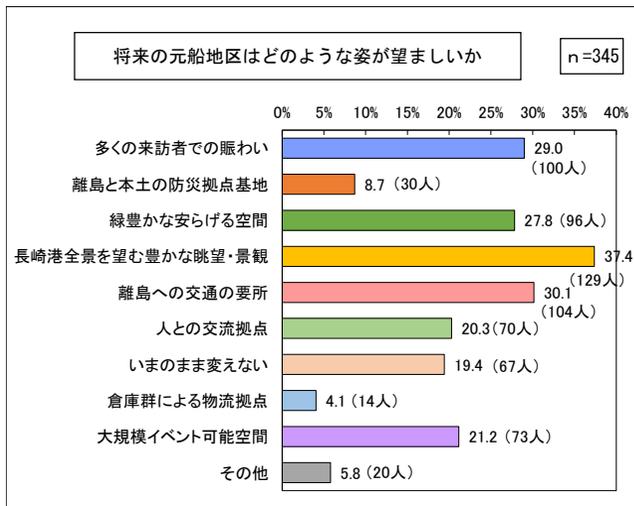
長崎港元船地区整備構想 対象エリア



長崎臨海部の全体まちづくりの方針となる「長崎都心まちづくり構想」との連携を図る。

**【調整中】**  
**長崎都心まちづくり構想 【海辺のエリア】の位置付け (案)**  
 (海辺のエリア：海の玄関口や市民の憩いの場となる長崎港に面したエリア)

- 海の玄関口として、国内外との交流を進めていくエリア
- 親水性を活かした憩い・潤いの空間
- 港とまちの近接性を活かした、魅力ある都市環境の形成



○幅広い年代のニーズとして、「長崎港全景を望む豊かな眺望・景観」が最も多い。  
 ○帰省者のニーズは、「離島への交通の要所」が多い。  
 ○全体の3番目に「多くの来訪者での賑わい」が多い。  
 ○その他、「長崎駅との動線を良くしてほしい」との意見がある。

○どの年代においても、「飲食店」、「休息スペース（緑地含む）」、「商業施設」が多い。  
 ○「休息スペース」は、全体で2番目、年代別では特に60歳代のニーズとなっている。

○どの年代においても、「駐車場の拡張」と「物販・飲食機能の拡張」が必要と考えられている。  
 ○旅行者のニーズは「観光案内所や案内板」が多く、帰省者のニーズは「駐車場棟との連結」が多い。

【キーワード】

- ターミナル施設の機能充実  
（物販・飲食機能の拡張、観光案内所や案内板）
- バリアフリー化の推進
- 広場の利用促進、交流施設の誘致（多くの来訪者での賑わい）
- ターミナル駐車場の機能向上（駐車場棟との連結）

- 歩行者回遊性、アクセス性の向上  
（離島への交通の要所、他との動線（長崎駅や出島等））
- 交通渋滞の緩和（駐車場の拡張、バス停の拡張）
- 休息空間づくり（休息スペース）
- 景観性向上（長崎港全景を望む豊かな眺望・景観）

現状と課題、周辺計画、アンケート結果等を踏まえ、以下の元船地区の整備構想コンセプト（案）はどうか。

元船地区周辺では、大正期に出島岸壁（現在の出島ワーフ前）が完成し、日華連絡船（上海航路）をはじめとした国際船の交流により文化を発展させてきた。その後、倉庫群が建ち並び、市民の日常利用からは閉ざされた空間となっていたが、昭和末期から平成期にかけ実施した、内港地区再開発事業により、現在の元船埠頭が誕生した。

現在は離島・沿岸航路の海上交通の要所として、また、大規模商業施設の立地、ヨットハーバー、軍艦島をはじめとした観光クルーズなど、臨海部としての賑わいも創出されつつあるが、施設配置位置やフェリー等の安定的な運航、交通混雑、施設老朽化等、課題が多い。

西九州新幹線の開業や今後の松が枝地区でのクルーズ船受入拠点整備などによる観光客の増加により、長崎市街地の姿が大きく変わっていくことが予想される中、元船地区も一体となり、更なる機能向上や臨海部である強みを生かした賑わい創出のための整備を検討していく必要がある。

国際船の交流が長崎の文化・日本の文化を発展させてきたという歴史を踏まえ、現在も、元船地区から、フェリーや高速船、観光クルーズ船が航行し、離島への玄関口であることが、元船地区の長崎らしさの一つであり、楽しさの一つである。また、漁獲魚種が全国一といった、長崎の海の幸による賑わいも特別な存在意義を放つ。

そのため、整備構想の策定にあたり、長崎らしさを生かし、現状の課題やこれまでの関連計画、県民・市民の思い（アンケート結果）に対応する、海上交通の要所としての更なる発展や、観光客や地元利用者が楽しむことのできる、「海と船と島と食」による人々の交流空間の創造を目指し、以下のとおり、コンセプトを設定する。

<コンセプト>

長崎・元船OASIS

～海と船の楽しさ感じる、島と食と人との交流空間～

OASIS : 【Ocean Amuse Ship/Seafood Island/Intersect Space】

Ocean	・・・	海（長崎港）
Amuse	・・・	お楽しみ
Ship	・・・	船
Seafood	・・・	海産物
Intersect	・・・	交差する
Island	・・・	島
Space	・・・	空間